

2021年10月28日

株式会社日本政策金融公庫

第210回 信用保証利用企業動向調査結果の概要

(2021年7～9月期実績、10～12月期見通し)

[概況] 信用保証利用企業の資金繰りは、やや悪化している。

～景況は、一部業種に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いている～

- 【金融関連】○ 資金繰りD.I.は、▲21.7とマイナス幅がやや拡大した。
○ 借入難易感D.I.は、▲8.4とマイナス幅がやや拡大した。
○ 今期に借入を実施した企業の割合は、減少した。
- 【保証利用】○ 今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、大幅に減少した。
○ 来期(21年10～12月)における保証利用要請D.I.は、▲3.0と過去最低となった。
※ 保証利用要請D.I. …金融機関による保証利用要請が「強くなると思う」企業の割合－「弱くなると思う」企業の割合。
- 【生産等】○ 生産・売上D.I.は、▲30.1と横ばい。
○ 採算D.I.は、▲32.5とマイナス幅がやや拡大した。

【特別調査】「新型コロナウイルス感染症の影響及びコロナ禍における信用保証付融資の利用状況等について」

- 新型コロナウイルス感染症による企業活動へのマイナスの影響については、「現在影響あり」と回答した企業は70.4%と、20年4～6月期以降7割前後で推移している。
- コロナ禍の20年2月～21年9月に資金繰り対策として、信用保証付融資を「利用した」と回答した企業は71.7%となっている。
- 利用した企業の事業への効果をみると、「当面の手元余裕資金を確保することができた」の割合が70.7%と最も高い。

＜調査の要領＞	調査時点	2021年9月中旬
	調査対象	9地域(北海道、宮城、東京、愛知、石川、大阪、広島、香川、福岡)の信用保証協会利用先 16,000企業を対象としており、 回答企業の約81%が従業員20人以下の小規模企業 となっています。
	有効回答企業数	5,200企業
	回答率	32.5%

＜お問い合わせ先＞

日本政策金融公庫 中小企業事業本部 保険企画部 Tel:03-3270-2384(担当:城所、新井田、今泉)
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティノースタワー

資料編につきましては[こちら](#)をご覧ください。

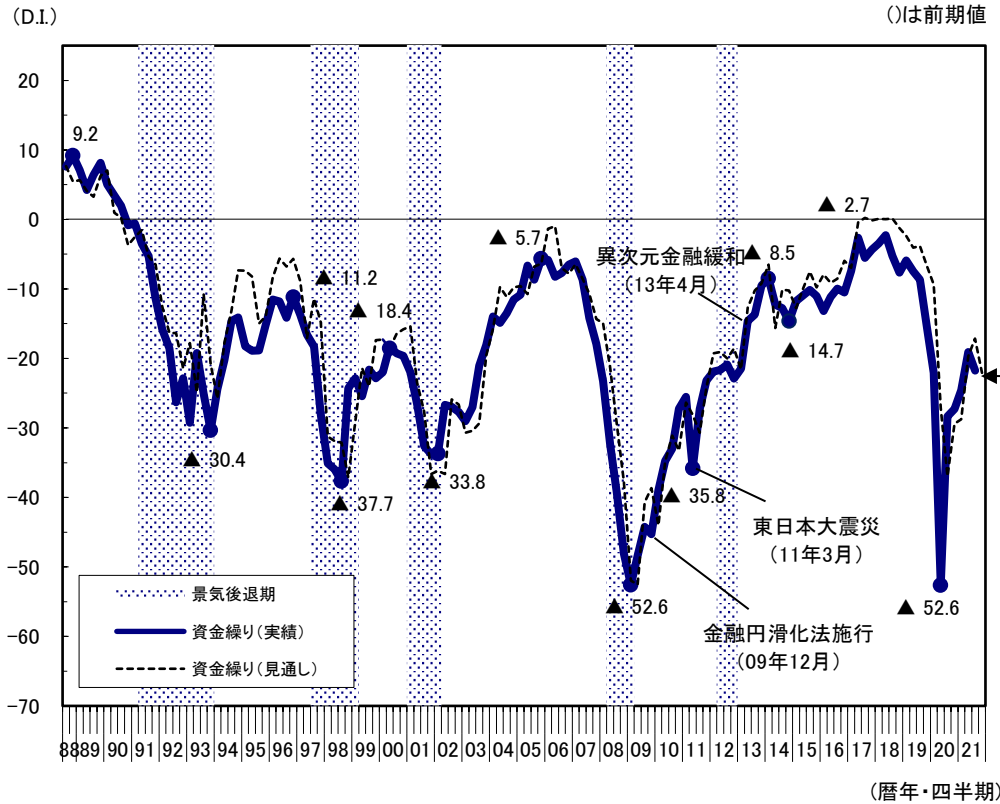
(1) 資金繰り

・資金繰りD.I.は、▲21.7とマイナス幅がやや拡大した。
来期の見通しについては、▲22.1となっている。

		2020/7-9	10-12	2021/1-3	4-6	7-9	10-12
資金繰りD.I.	実績	▲28.3	▲27.3	▲24.6	▲19.1	▲21.7	
	見通し	▲36.9	▲29.4	▲28.8	▲19.7	▲17.2	▲22.1

(注) 前期比。資金繰りD.I.は、「好転」企業の割合-「悪化」企業の割合。季節調整値。

資金繰りD.I.(季節調整値)の推移



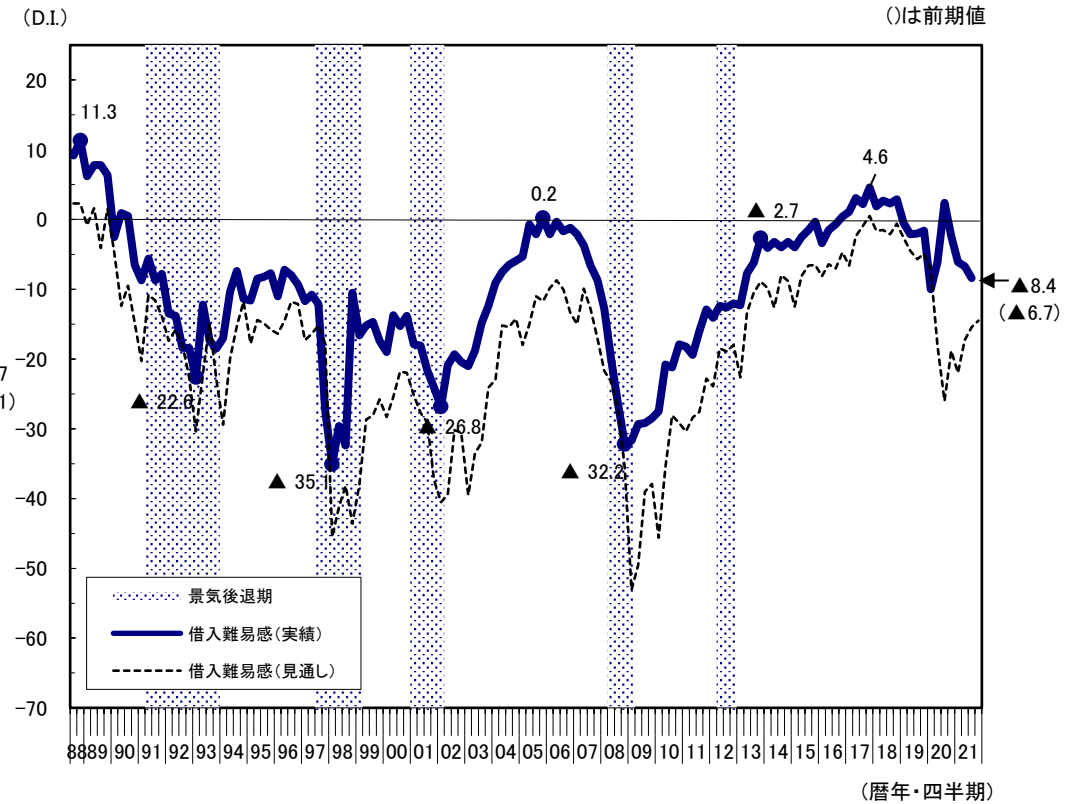
(2) 借入難易感

・借入難易感D.I.は、▲8.4とマイナス幅がやや拡大した。
来期の見通しについては、▲14.5となっている。

		2020/7-9	10-12	2021/1-3	4-6	7-9	10-12
借入難易感D.I.	実績	2.4	▲2.4	▲6.1	▲6.7	▲8.4	
	見通し	▲26.0	▲18.8	▲22.0	▲17.3	▲15.4	▲14.5

(注) 前期比。借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合-「困難」企業の割合。原数値。

借入難易感D.I.の推移



(3) 借入状況

・今期に借入を実施した企業の割合は、減少した。

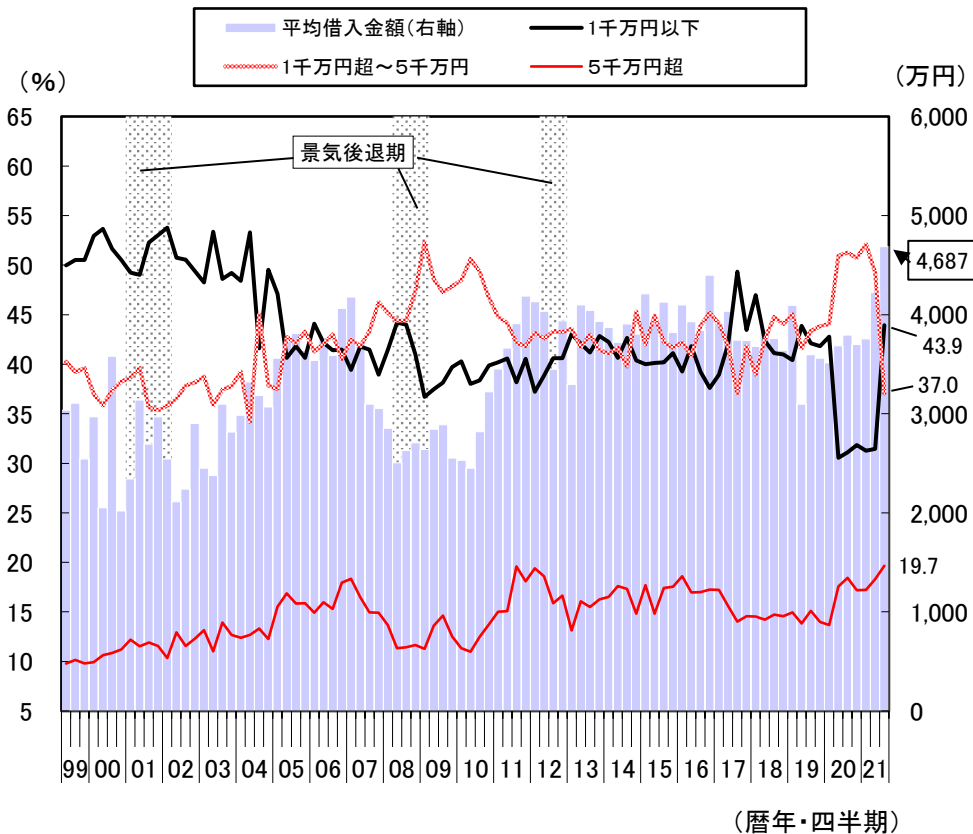
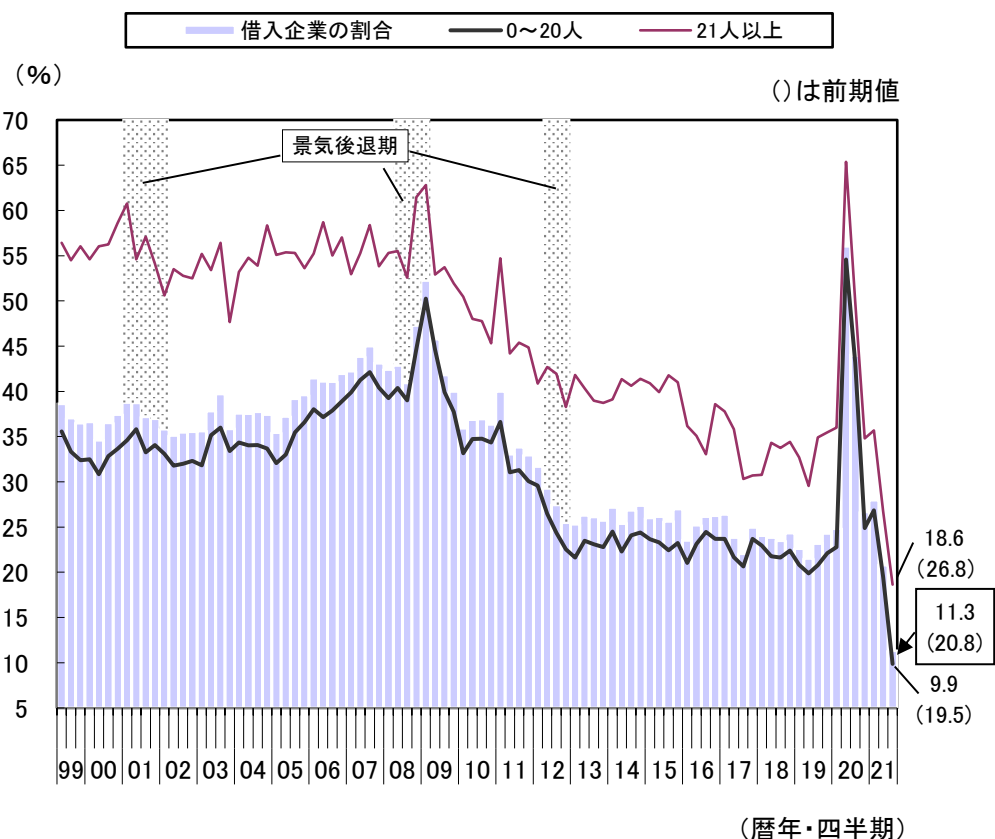
① 借入を実施した企業の割合(季節調整値)

	2020/7-9	10-12	2021/1-3	4-6	7-9
借入企業の割合	43.9	26.7	28.0	20.8	11.3
0~20人	43.2	24.9	26.8	19.5	9.9
21人以上	49.9	34.8	35.7	26.8	18.6

・一社あたりの借入金額別構成比は、「1千万円以下」が大幅に増加した一方で、「1千万円超~5千万円」が大幅に減少した。

② 一社あたりの借入金額別構成比(季節調整値)

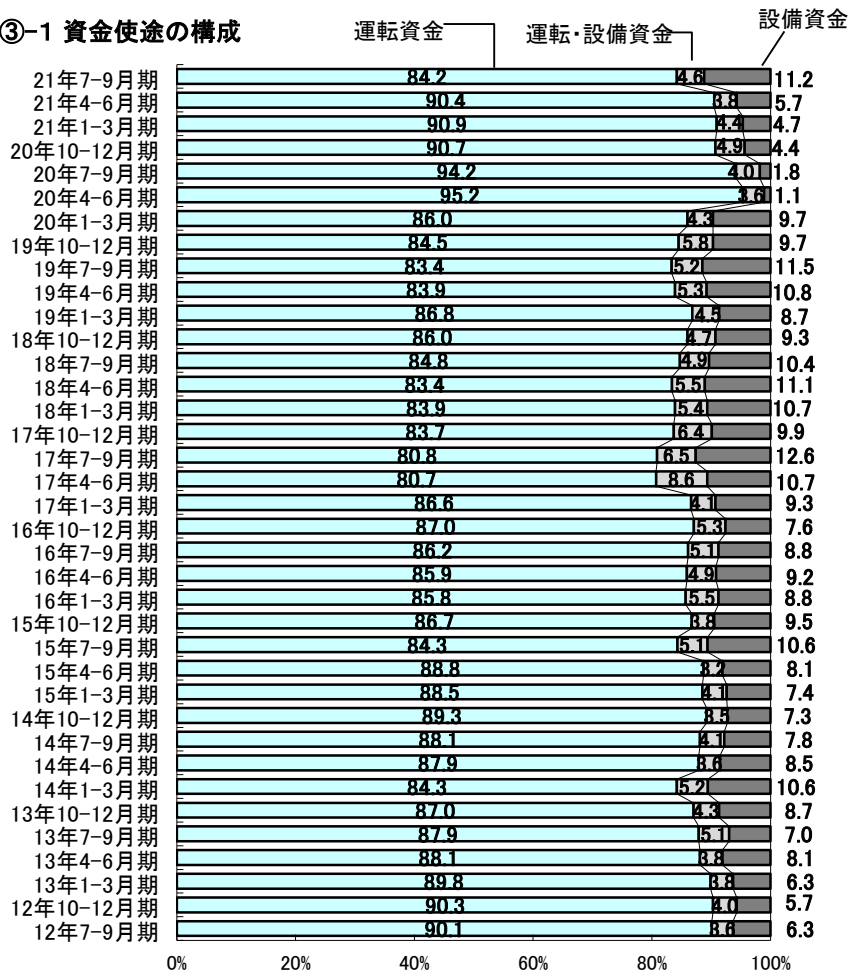
	2020/7-9	10-12	2021/1-3	4-6	7-9
1千万円以下	31.1	31.8	31.3	31.5	43.9
1千万円超~5千万円	51.2	50.7	52.1	49.2	37.0
5千万円超	18.4	17.2	17.2	18.3	19.7



(注)「借入」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計したものである。

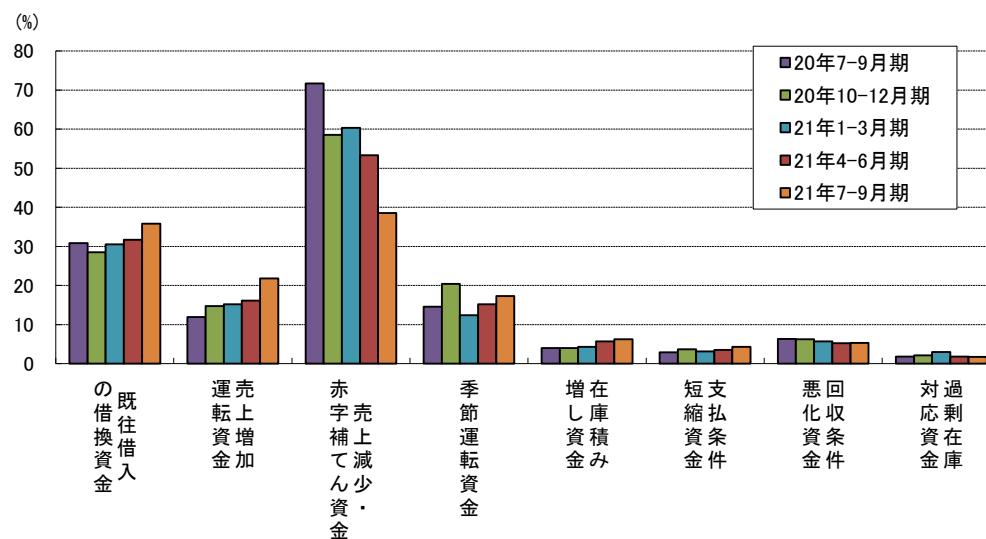
- ・資金用途については、設備資金の割合が増加し、19年7～9月期以来、8期ぶりに10%を上回った。
- ・運転資金の内訳では、「売上減少・赤字補てん資金」の割合が大幅に減少し、「売上増加運転資金」、「既往借入の借換資金」の割合が増加した。

③-1 資金用途の構成



③-2 運転資金の内訳

(原数値)		既往借入の借換資金	売上増加運転資金	売上減少・赤字補てん資金	季節運転資金	在庫積み増し資金	支払条件短縮資金	回収条件悪化資金	過剰在庫対応資金
21年	7-9月期	35.8	21.8	38.5	17.3	6.2	4.3	5.3	1.7
	4-6月期	31.7	16.1	53.3	15.2	5.7	3.5	5.2	1.8
	1-3月期	30.5	15.2	60.3	12.4	4.3	3.1	5.7	3.0
20年	10-12月期	28.5	14.7	58.5	20.4	4.0	3.7	6.2	2.1
	7-9月期	30.8	11.9	71.7	14.6	4.0	2.9	6.3	1.8



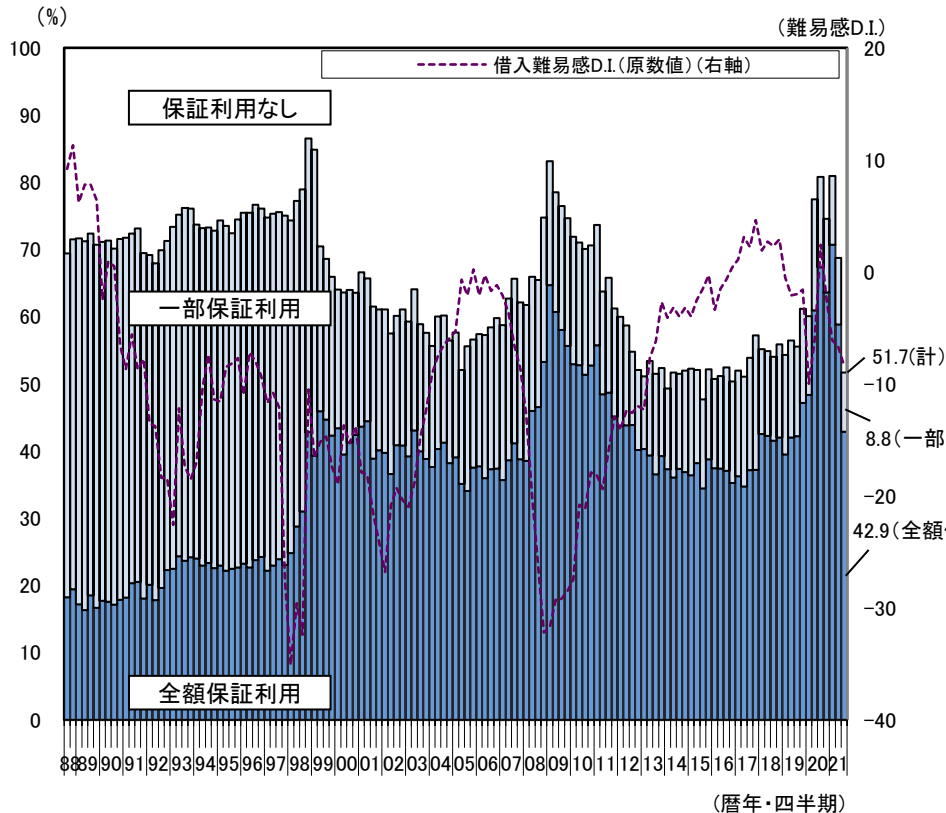
- (注) 1.複数回答のため、合計は100を超える。
2.「資金用途」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計した借入金に係るものである。

(4) - 1 保証利用状況

・今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、大幅に減少した。保証利用割合別にみると、「全額利用」が大幅に減少した。

	2020/7-9	10-12	2021/1-3	4-6	7-9
保証利用企業の割合	80.8	74.5	80.9	68.7	51.7
全額利用	67.4	63.6	70.7	58.8	42.9
一部利用	13.4	10.9	10.2	9.9	8.8
保証利用がない企業の割合	19.2	25.5	19.1	31.3	48.3

借入企業に対する保証利用企業の割合(季節調整値)



(注)当該四半期中に新規借入を行った企業数について、「保証利用なし」、「保証付きの借入のみ(全額保証利用)」、「保証付きの借入と保証を利用しない借入を併用(一部保証利用)」の区分で集計したものの。

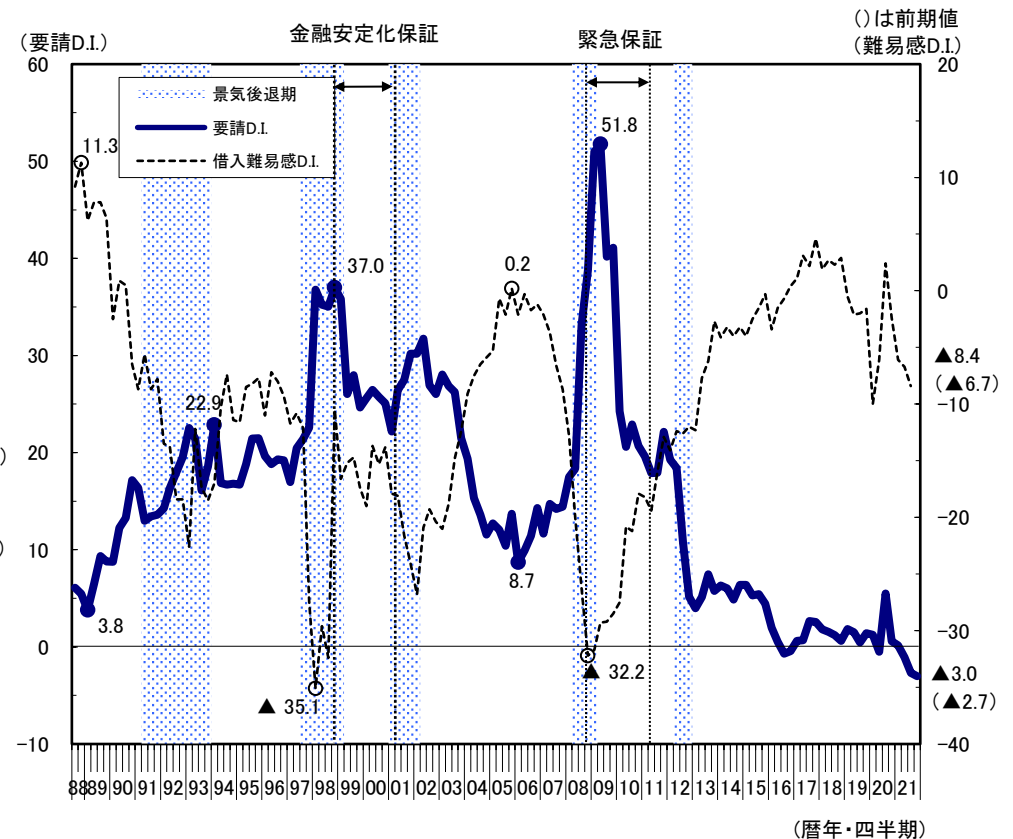
(4) - 2 金融機関からの保証利用要請

・来期(21年10~12月)における保証利用要請D.I.は、▲3.0と過去最低となった。

	2020/7-9	10-12	2021/1-3	4-6	7-9	10-12
要請D.I. 見通し	5.5	0.6	0.2	▲1.1	▲2.7	▲3.0
借入難易感D.I. 実績	2.4	▲2.4	▲6.1	▲6.7	▲8.4	

(注) 1.前期比。要請D.I.は、「強くなると思う」企業の割合-「弱くなると思う」企業の割合。季節調整値。
2.借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合-「困難」企業の割合。原数値。

金融機関からの要請D.I.(季節調整値)及び借入難易感D.I.の推移



(5) 生産・売上

・生産・売上D.I.は、▲30.1と横ばい。
来期の見通しについては、▲19.1となっている。

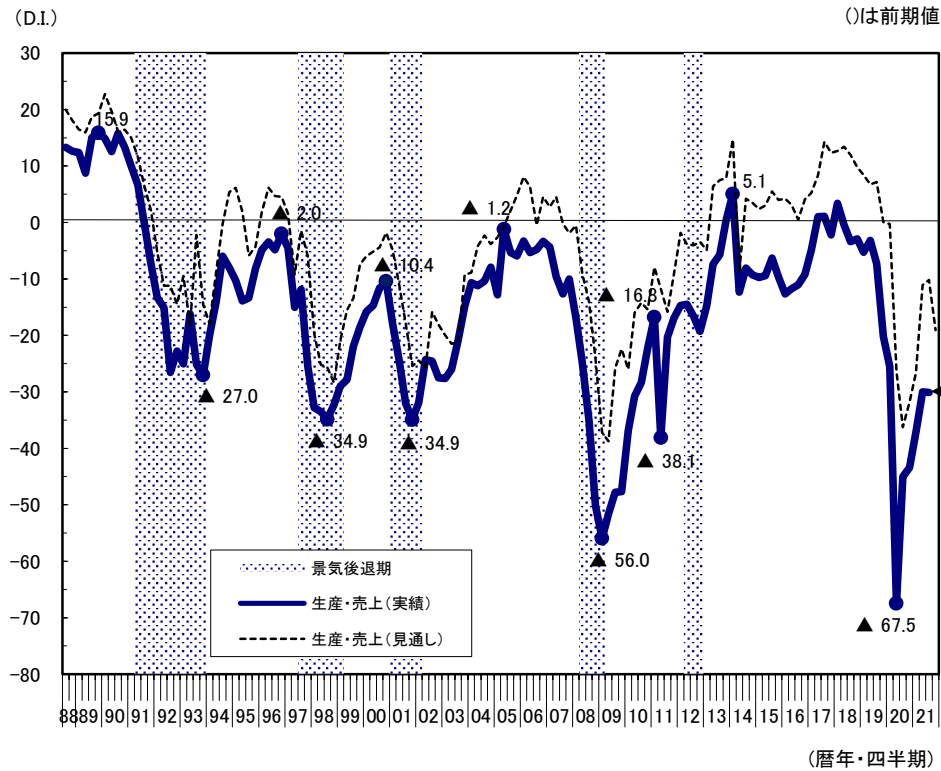
		2020/7-9	10-12	2021/1-3	4-6	7-9	10-12
生産・売上D.I.	実績	▲45.1	▲43.4	▲37.2	▲30.0	▲30.1	
	見通し	▲36.3	▲31.8	▲26.7	▲11.1	▲10.2	▲19.1

(注) 前期比。生産・売上D.I.は、「増加」企業の割合-「減少」企業の割合。季節調整値。

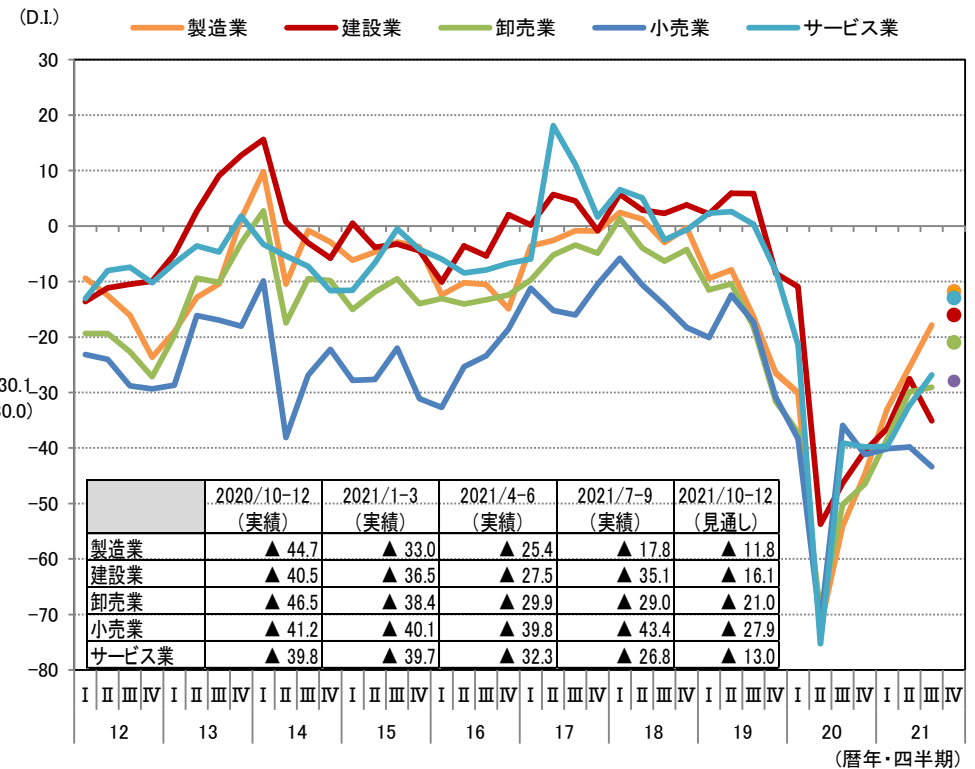
生産・売上（業種別）

・生産・売上D.I.(業種別)は、建設業、小売業でマイナス幅が拡大した一方、
製造業、サービス業でマイナス幅が縮小した。

生産・売上D.I.(季節調整値)の推移



業種別生産・売上D.I.(季節調整値)の推移



(6) 採算

- ・採算D.I.は、▲32.5とマイナス幅がやや拡大した。
来期の見通しは、▲21.3となっている。

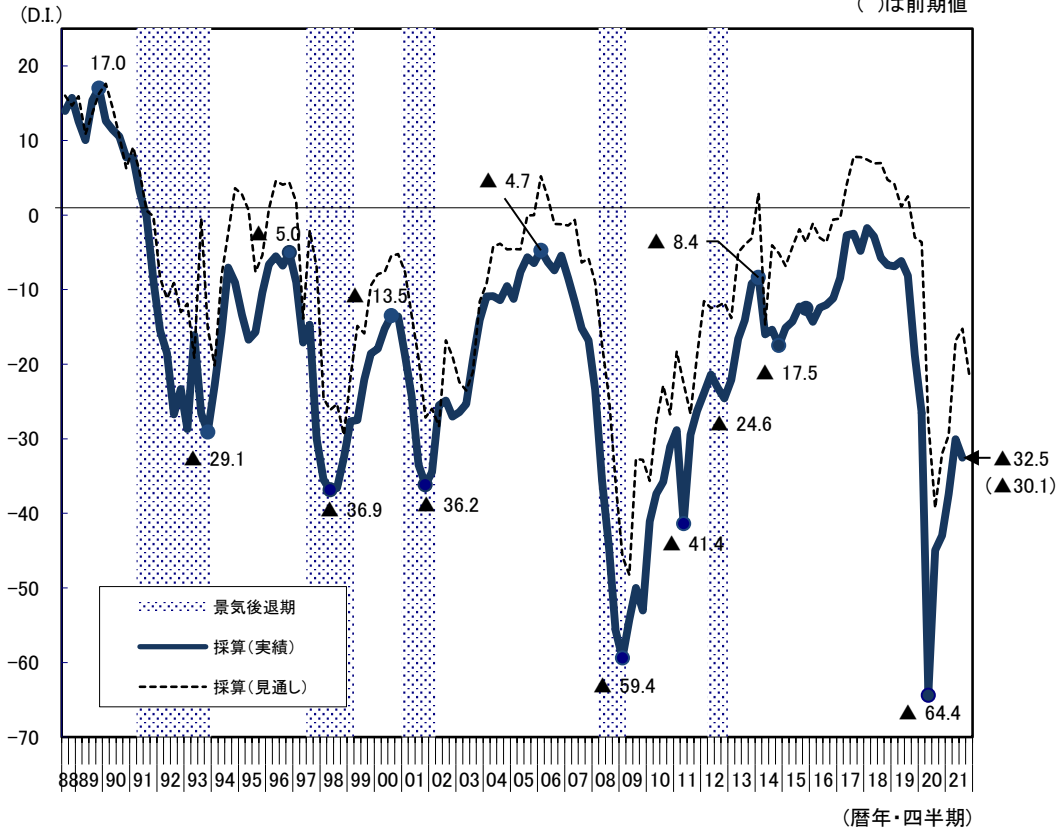
(参考) 保証利用割合

- ・借入総残高に占める信用保証利用の割合については、半分以上と回答した企業が68.4%と横ばい。

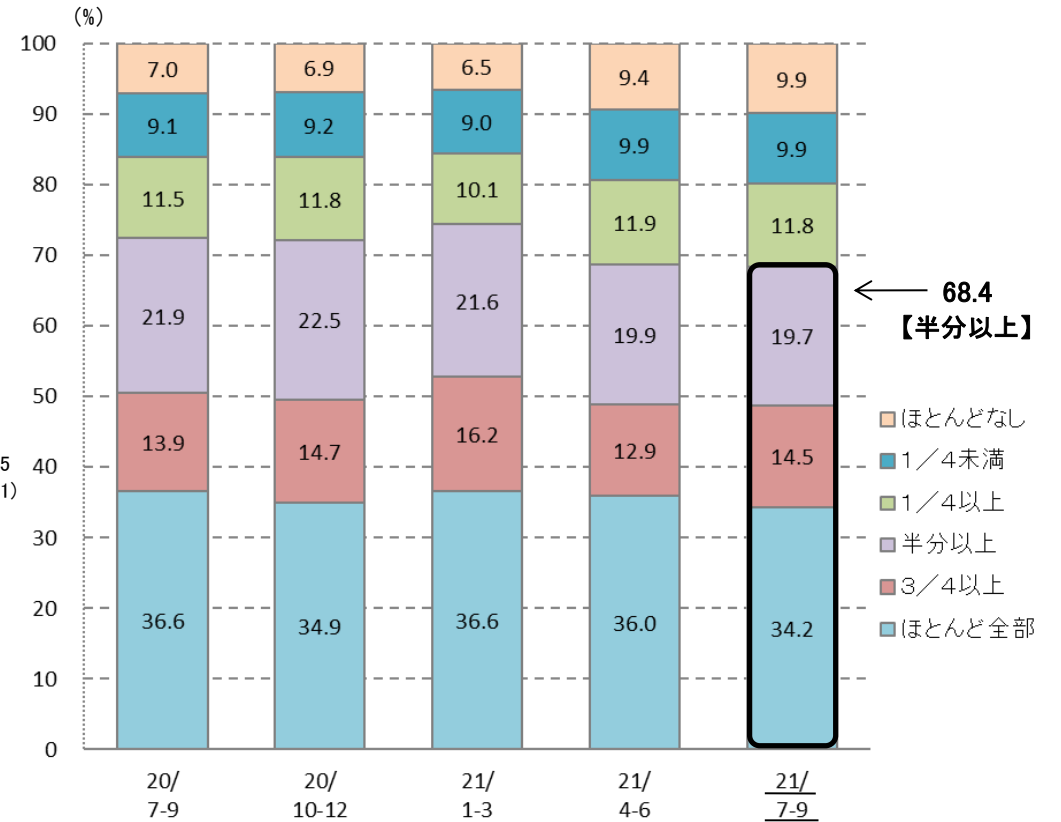
		2020/7-9	10-12	2021/1-3	4-6	7-9	10-12
採算D.I.	実績	▲44.9	▲43.0	▲37.4	▲30.1	▲32.5	
	見通し	▲39.3	▲32.0	▲29.6	▲16.8	▲15.2	▲21.3

(注) 前期比。採算D.I.は、「好転」企業の割合-「悪化」企業の割合。季節調整値。

採算D.I.(季節調整値)の推移



保証利用割合の推移



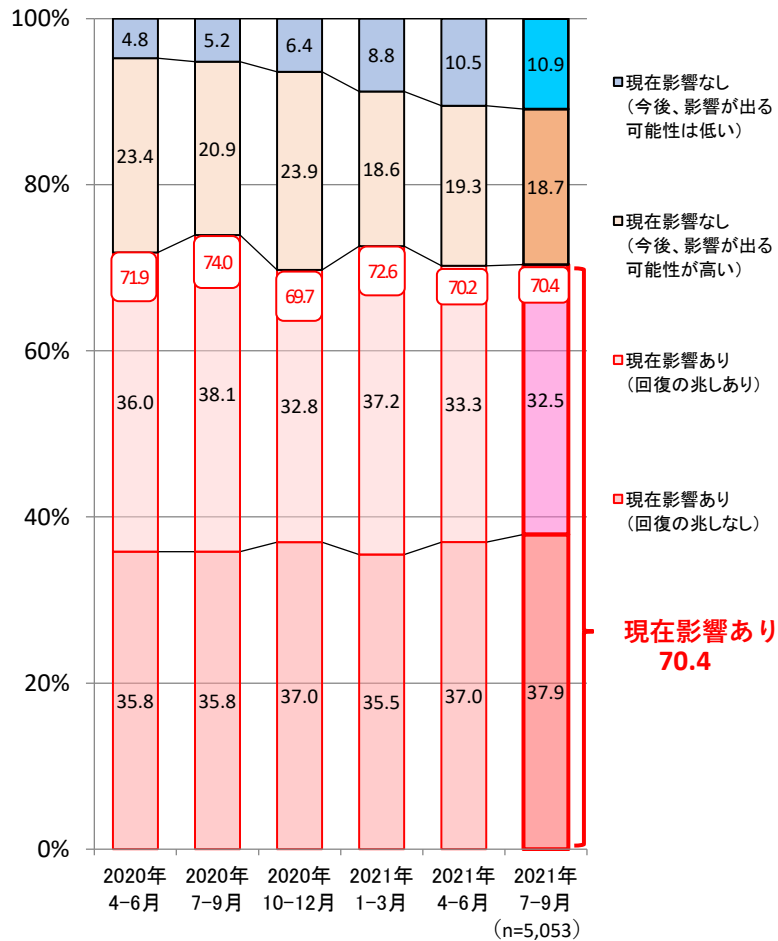
特別調査

新型コロナウイルス感染症の影響及びコロナ禍における信用保証付融資の利用状況等について

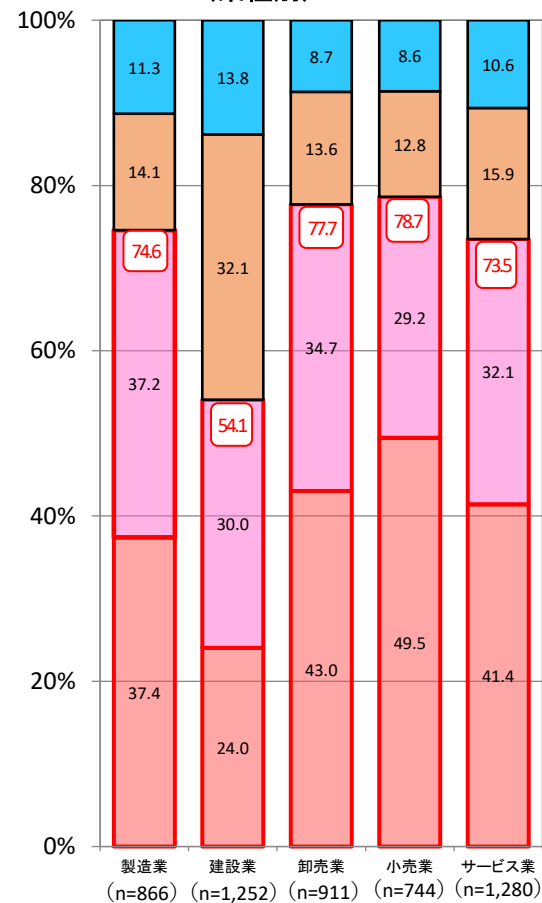
1. 新型コロナウイルス感染症の影響について

- ・新型コロナウイルス感染症による企業活動へのマイナスの影響については、「現在影響あり」と回答した企業は70.4%と、20年4～6月期以降7割前後で推移している。
- ・業種別にみると、建設業は「現在影響あり」が54.1%と他業種と比べて低い割合となっている。
- ・従業員規模別にみると、概ね従業員規模が小さな企業ほど「回復の兆しなし」の割合が高い傾向となっている。

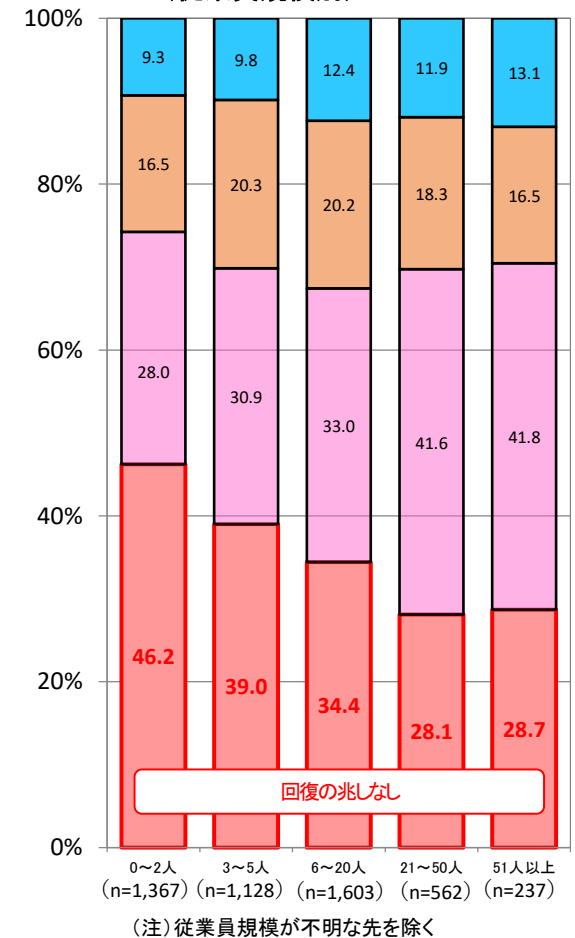
(1) 企業活動へのマイナスの影響



(2) 企業活動へのマイナスの影響 (業種別)



(3) 企業活動へのマイナスの影響 (従業員規模別)



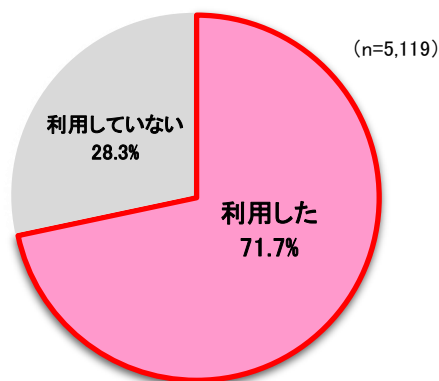
特別調査

新型コロナウイルス感染症の影響及びコロナ禍における信用保証付融資の利用状況等について

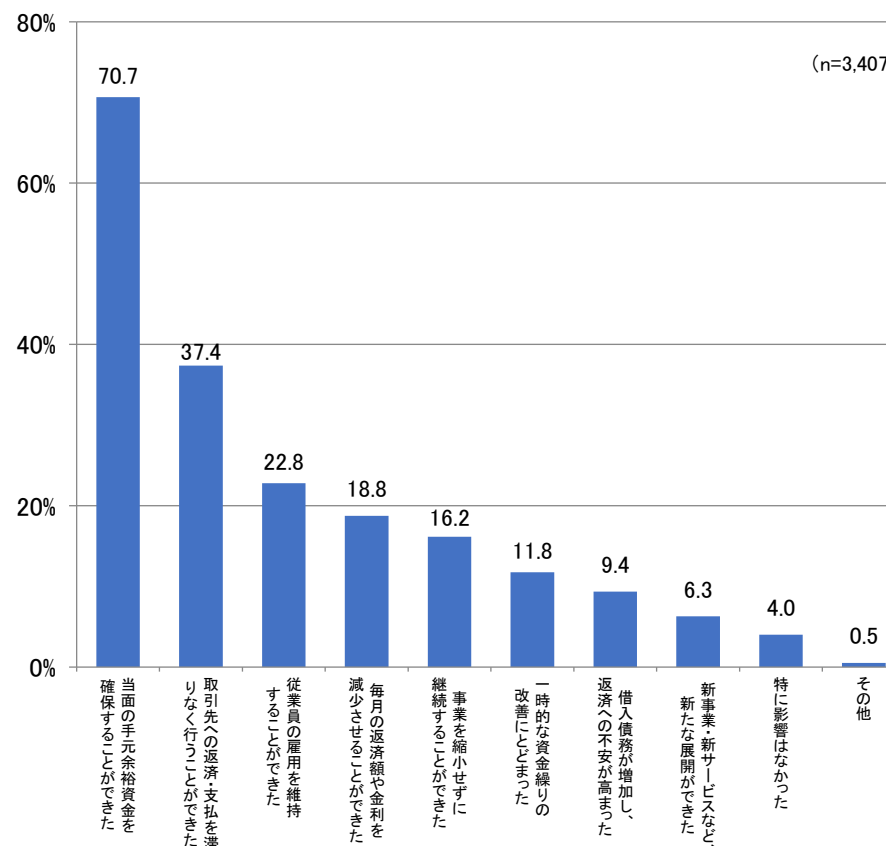
2. 信用保証付融資の利用状況について

- ・コロナ禍の20年2月～21年9月に資金繰り対策として、信用保証付融資を「利用した」と回答した企業は71.7%となっている。
- ・利用した金融機関では、「信用金庫」の割合が48.9%と最も高い。
- ・利用した企業の事業への効果をみると、「当面の手元余裕資金を確保することができた」の割合が70.7%と最も高い。

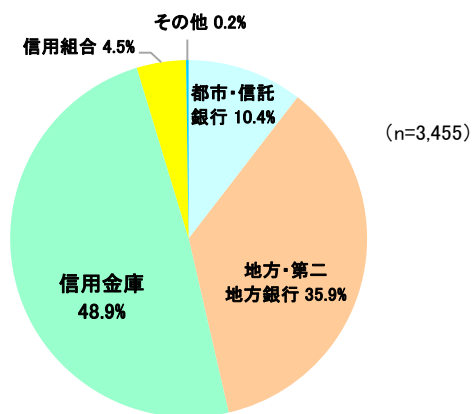
(1) 信用保証付融資の利用状況(2020年2月～2021年9月)



(3) 左記の期間内に信用保証付融資を利用した企業の事業への効果



(2) 上記の期間内に信用保証付融資を利用した金融機関



(注1) 複数の金融機関を利用した場合は、最も利用金額が大きい金融機関

(注2) 複数回答のため、合計は100%を超える。

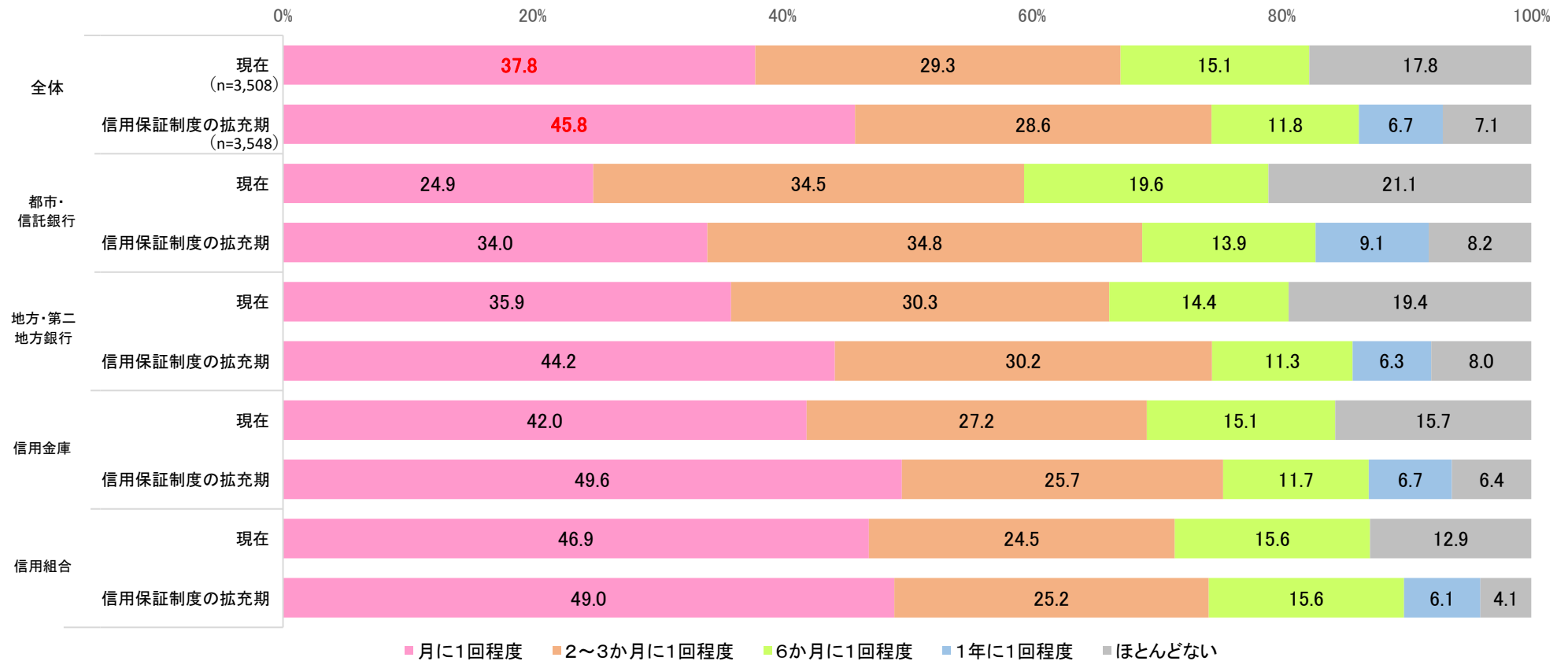
特別調査

新型コロナウイルス感染症の影響及びコロナ禍における信用保証付融資の利用状況等について

3. 金融機関との対話状況について

・対話頻度が「月に1回程度」と回答した企業の割合は、信用保証制度の拡充期の45.8%から、現在は37.8%に低下したものの、最も高い。

(1) 金融機関との対話頻度



(注1) 信用保証制度の拡充期: 2020年2月～2021年3月頃
現在: 2021年4月～9月頃

(注2) 対話: 訪問、面談、電話、オンライン等の手段により、金融機関と対話したものをいう
(注3) 現在の期間が2021年4月～9月頃のため、「1年に1回程度」は区分けしていない

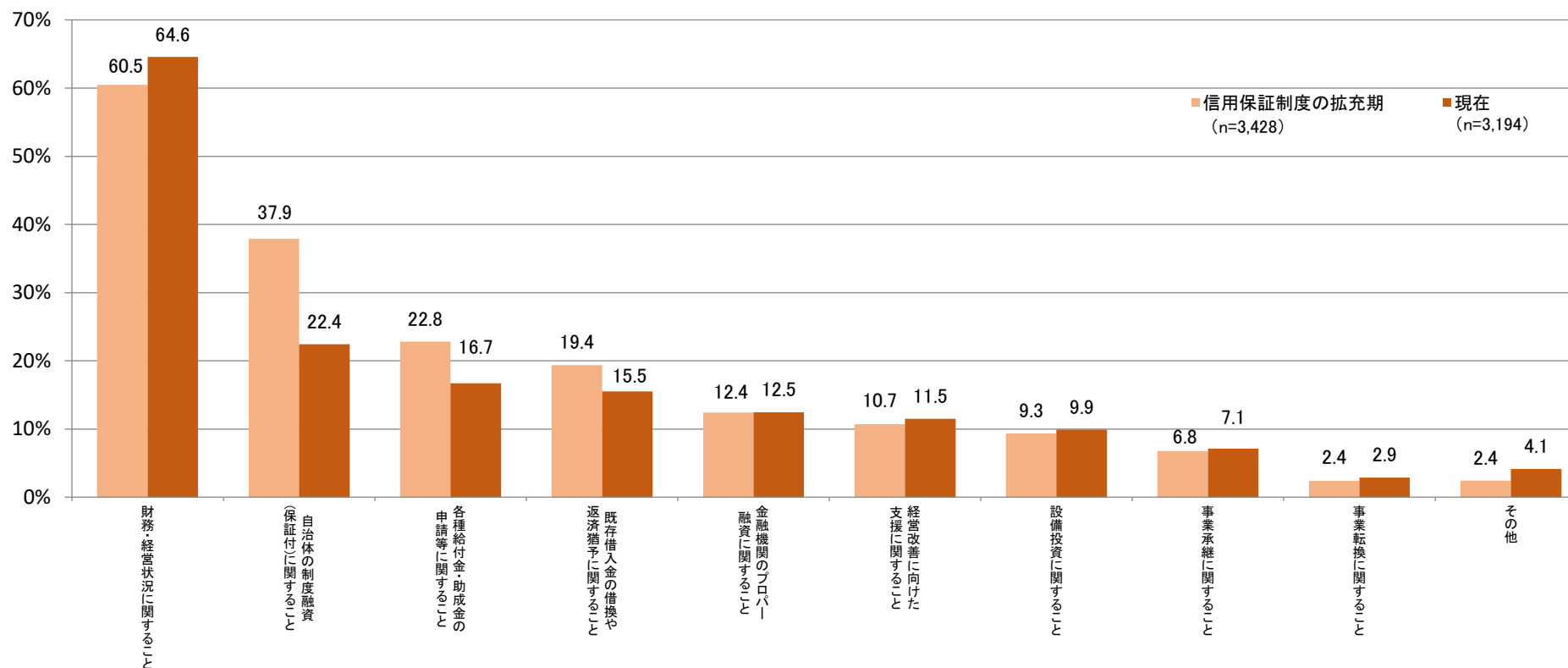
特別調査

新型コロナウイルス感染症の影響及びコロナ禍における信用保証付融資の利用状況等について

3. 金融機関との対話状況について

・金融機関との対話時の話題については、「財務・経営状況に関すること」が6割と最も高く、次いで「自治体の制度融資(保証付)に関すること」、「各種給付金・助成金の申請等に関すること」の順になっている。

(2) 金融機関との対話時の主な話題



(注1) 信用保証制度の拡充期: 2020年2月～2021年3月頃
現在: 2021年4月～9月頃

(注2) 複数回答のため、合計は100%を超える。

(注3) プロパー融資: 信用保証付ではない融資

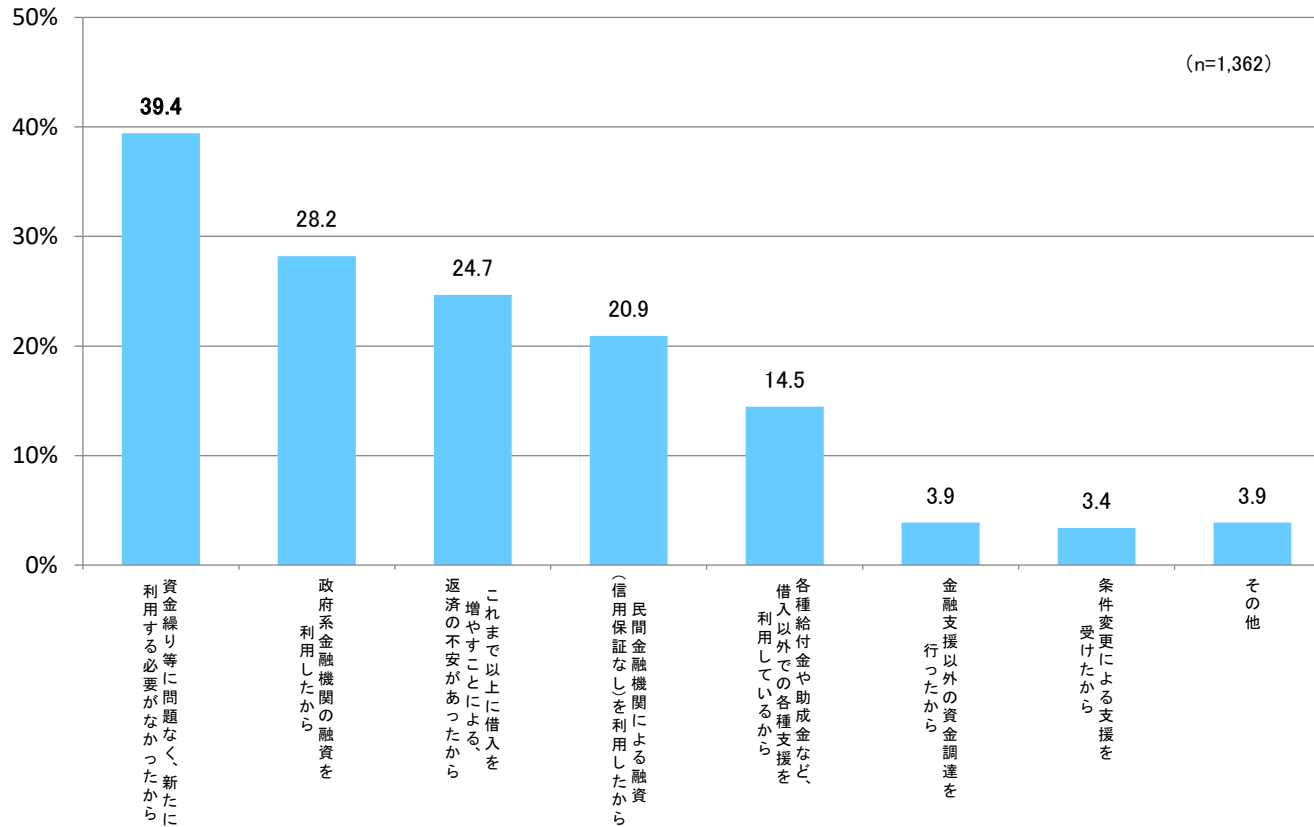
特別調査

新型コロナウイルス感染症の影響及びコロナ禍における信用保証付融資の利用状況等について

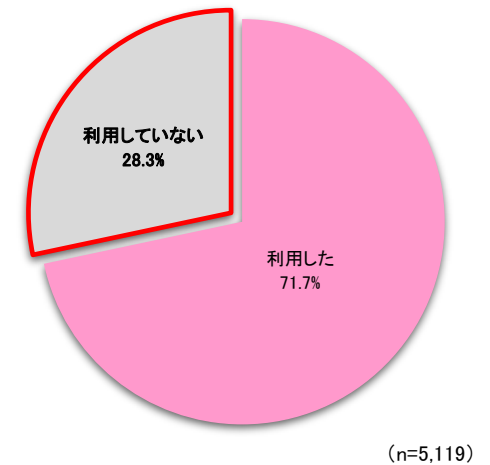
4. 信用保証付融資の未利用の状況について

・コロナ禍の20年2月～21年9月に、信用保証付融資を利用しなかった主な理由は、「資金繰り等に問題がなく、新たに利用する必要がなかったから」が約4割と最も高く、次いで「政府系金融機関の融資を利用したから」、「これまで以上に借入を増やすことによる、返済の不安があったから」の順に割合が高くなっている。

信用保証付融資を利用していない主な理由



【再掲】信用保証付融資の利用状況 (2020年2月～2021年9月)



(注)複数回答のため、合計は100%を超える。